

2026年5月

青空機械新聞

業界ニュースとトレンド紹介

発行
第36号世界のモノづくり現場で起きている地殻変動：2026年の投資動向と新拠点の誕生
～中国・インド・メキシコ・ブラジル、4つの地域で進む次世代産業への巨額投資～

世界の製品を作る仕組み(供給網)は今、大きな転換期を迎えています。特定の国に頼りすぎないリスク分散や、消費地に近い場所で生産する動きが本格化し、世界各地で工場や設備への巨額の投資が相次いでいます。最新のデータと具体的な計画をもとに、中国、インド、メキシコ、ブラジルの4つの地域が今どうなっているのかを解説します。

1. 中国

＜量から質へ、最先端の技術が支える5%の経済成長＞

2025年、中国の経済は前の年と比べて5.0%成長しました。注目すべきは、全体の投資が伸び悩む中で、製造業への投資が着実に増えている点です。2026年に入ってもその勢いは続いています。特に「高度な技術が必要な製品」や「産業用機械」の分野が好調で、中国が単なる「組み立て工場」から「高度な技術を持つ製造強国」へと、はっきりと姿を変えていることが分かります。

＜ロボットと電気自動車への集中投資＞

具体的な計画を見ると、将来を見据えた投資が目立ちます。山東省では、人間のように複雑な動きをする「人工知能(AI)搭載ロボット」を年間3,000台作る計画が進んでいます。また、寧波市ではドローンや次世代ロボットの研究開発が進められています。電気自動車(EV)の分野では、大手メーカーの蔚来汽車(NIO)が安徽省に年間30万台規模の新工場を建設しており、2027年の完成を目指しています。これに合わせて、ブレーキや部品を作る関連企業の巨額投資も同時に進んでいます。

発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械 (あおぞらきかい)

代表者：青木 佑典(あおき ゆうすけ)

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：aoki@bsmt.co.jp

＜貿易の相手国の変化＞

米中対立の影響で、アメリカとの貿易額は大きく減りました。一方で、東南アジア諸国やアフリカ諸国との貿易が着実に増えています。中国にとってのビジネスパートナーが、欧米からアジアやアフリカへと移り変わっていることが鮮明になっています。

2. インド

＜「組立」から「自国での開発」へと飛躍する経済大国＞

インドの製造業は今、最も勢いのある時期を迎えています。2026年3月の景気判断指数も高い水準を維持しました。原材料の値上がりという課題はありますが、仕事が増えるスピードは過去7ヶ月で最高となっており、産業の地力が確実に上がっています。

＜電子機器や半導体の自国生産＞

インドが長年目指してきた「自国での高度なモノづくり」を象徴するのが、スマートフォンの生産です。今や世界中のiPhoneの約4分の1がインドで作られています。単なる組み立てだけでなく、部品の設計や製造から関わるようになっていきます。また、念願だった半導体を作る工場も稼働を始め、インドは世界の最先端産業にしっかりと食い込んでいます。

＜防衛やエネルギーでの自立＞

政府が掲げる「インドで作ろう」というスローガンのもと、防衛装備品の輸出も増えています。また、太陽光発電などの再生可能エネルギー分野でも、巨大な投資が進んでいます。自動車でも、電動バイクの専用工場が作られるなど、国を挙げて次世代の乗り物への切り替えが進められています。

3. メキシコ

＜北米市場の「心臓部」として注目される工業地＞

消費地であるアメリカの隣で生産を行う「近場生産」の動きで、最も恩恵を受けているのがメキシコです。特に中部の工業地帯には、世界中から投資が集まっています。

<海外資本の流入と技術の高度化>

ドイツや韓国の企業が、次々と大規模な工場を建てています。これまで「安い人件費」が魅力と言われてきたメキシコですが、最近では自動車向けの高度な電子基板など、高い技術が必要な製品を作る拠点へと進化しています。アメリカ市場向けの電気自動車を作るための重要な供給拠点として、その存在感はますます高まっています。

4. ブラジル

<エネルギー転換と巨大市場との連携>

南米の大国ブラジルは、独自の強みを発揮しています。特に中国との経済的な結びつきが強く、貿易額は過去最高を記録しました。

<再生可能エネルギーへの挑戦>

ブラジルの投資で特に目立つのは「エネルギー」です。太陽光や風力を使った大規模な発電計画がいくつも完了しています。豊かな自然資源を活用して、クリーンなエネルギーで国を動かし、その技術を産業全体に波及させようとしています。また、重工業だけでなく、ペットフードの製造設備といった身近な製品の工場にも投資が進んでおり、国内の景気が底堅いことを示しています。

「だましだまし使う」ことが、一番高くないっていませんか？

「まだ動くから」と20年前の機械を使い続けるのは節約に思えますが、実は毎日、目に見えない損を重ねているかもしれません。今の機械と昔のものでは削るスピードが根本から違います。これまで1時間かかっていた仕事が40分で済めば、浮いた20分で別の仕事ができるようになります。1日8時間回せば2時間以上の「新しい稼ぎ」が生まれる。この差は1ヶ月、1年と経つうちに、大きな金額の差になって表れます。そして何より、今の仕事で求められる「精度」への対応です。20年も経てば、いくら手入れをしても機械のヘタリは避けられません。最新機ならシビアな寸法も一発で決まり、手直しや不良品に泣かされることもなくなります。「あそこの仕事は

結論：これからのモノづくりに必要な視点

今回の調査で分かったのは、どの地域でも「機械の自動化」「精密な加工技術」「環境に優しい仕組み」が共通のキーワードになっているということです。

中国：AIやロボットを使い、より高度な製品を作る。

インド：半導体や防衛など、国を支える基幹産業を自前で作る。

メキシコ：北米市場向けのハイテク部品を作る拠点になる。

ブラジル：クリーンなエネルギーを活用して産業を育てる。

世界規模で製造の仕組みが変わる今、国内の仕事もより高い精度とスピードが求められるようになっていきます。

古い機械で手間をかけてしのぐのは限界があり、いずれは精度や効率の差が、そのまま収益の差として表れてしまいます。

次の一手として新しい設備を迎え入れ、今の技術を最大限に引き出す仕組みを整える。それが、人手不足の中でも無理なく稼ぎ、工場の看板を守り抜く近道となります。

(AMTレポートより)

いつも正確だ」という信頼こそが、単価を守る最大の武器になります。最近の電気代高騰も古い機械にはこたえます。最新機なら消費電力を2割以上抑えられることも多く、高い電気代を垂れ流すくらいなら、その分を機械の支払いに回して資産にするほうが賢明です。何より怖いのは急な故障です。20年も経つと部品がなく、直したくても直せません。忙しい時に動かなくなり信用を失うリスクを考えれば、更新こそが正解です。機械に任せられるところは任せ、人は腕のいる仕事に専念する。投資で攻めに転じ、人手不足を跳ね返す強い現場を築く時です。

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

株式会社青空機械

TEL : 070-8303-6632

FAX : 050-3588-8241

E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青 空 機 械

検索

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)

2009年 (株)兼松KGK 入社

2010年

↓

同社新潟営業所勤務

2016年

2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社

2017年

↓

日鉄物産(株) 米国法人出向

2020年

2021年 ユアサ商事(株) 入社

↓

同社新潟支店勤務

2024年

2024年 (株)青空機械 設立